

住環境の社会地図から見た世田谷区

平原 幸輝

2023 年度に実施した、ダッシュボードの試作品の作成をはじめとした、東京都世田谷区の社会空間構造を解明する取り組みの前提として、住環境に関する下記の社会地図を用いて、世田谷区の現況を把握した。これらの社会地図は、早稲田大学人間科学学院の浅川達人教授の指導のもと、浅川研究室に所属する大学生に作成いただいたものである。

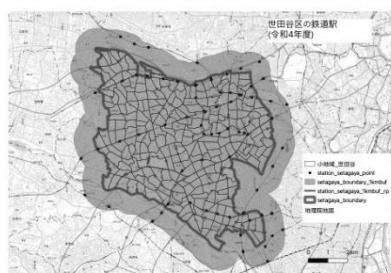


図1：鉄道駅の分布

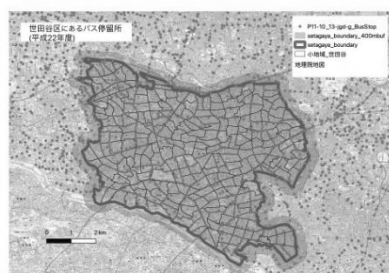


図2：バス停留所の分布

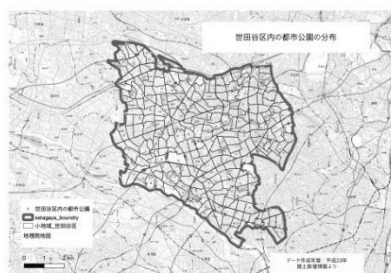


図3：都市公園の分布

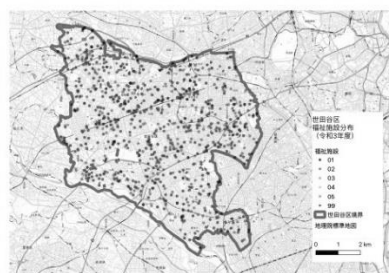


図4：福祉施設の分布

図1は、世田谷区の境界から1kmのバッファを作成した上で、2022年度における範囲内の鉄道駅をプロットしたものである。なお、バッファとは、対象から等距離内となるエリアのことである。図2は、世田谷区の境界から400mのバッファを作成した上で、2010年度におけるバス停留所をプロットしたものである。図3は、2011年度における、世田谷区に位置する都市公園をプロットしたものである。図4は、2021年度における、世田谷区に位置する保護施設、老人福祉施設、障害者支援施設等、身体障害者社会参加支援施設、児童福祉施設等、その他の社会福祉施設等をプロットしたものである。

これらの社会地図と、ダッシュボードの試作品を重ね合わせると、鉄道駅が多く見られる区の北東部には若年単身世帯が多く生活していることや、高齢者の集中に対する福祉施設の「空白地域」が存在することなどが、知見として得られた。

※ 先述のように、図1～4の社会地図の作成にあたっては、早稲田大学人間科学学院の浅川達人教授、浅川研究室に所属する大学3年生(2023年度当時)の徳田麻亜沙さん、三輪彩乃さん、大道妃夏さん、石橋真衣さん、伊藤百花さん、加藤美紅さんにご協力いただきました。深くお礼申し上げます。